

# 幼 兒 教 育

第 二 十 二 卷 第 一 號  
大 正 九 年 一 月 一 日 發 行

## 目 次

幼 兒 の 調 節 生 活 ..... 森 川 正 雄

改 造 運 動 の 根 本 問 題 ..... 三 田 谷 啓

我 園 の 一 日 ..... 各 地 幼 稚 園

學 制 改 革 の 上 よ り 見 た る 幼 稚 園 ..... 和 田 實

雜 報

ヘッベル「わが幼時」(五) ..... 艶 子 譯

日 本 幼 稚 園 協 會

謹みて新年を賀し本年に  
於て我國幼兒教育界の益  
々多幸ならん事を祈り候

大正九年元旦

日本幼稚園協會

本誌定價

一冊 郵税共金拾六錢 六冊前金郵税共九拾錢  
拾二冊同金壹圓八拾錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六)

大正八年十二月廿七日印刷納本  
大正九年一月一日發 行

編輯兼發行者 小 高 覽  
東京市日本橋區岩附町一番地

印刷者 福 山 福 太 郎  
東京市牛込區西五軒町五二番地

印刷所 福 山 印 刷 製 本 所  
東京市牛込區西五軒町五二番地

發行所 日本幼稚園協會  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

# 幼 兒 教 育

第二十卷  
第一號

大正九年一月一日發行

## 幼 兒 の 調 節 生 活

奈良女子高等師範學校教授 森 川 正 雄

保育といふ事は幼兒の發達を助長することである。さてその發達といふ事は如何なる事かと言ふに、生物がその環境に段々よく調節し適應し行くと云ふ事に外ならない。そこで、保育といふ事は、畢竟は、幼兒をして其の環境に對する調節生活を學ばしめると云ふ事になるのである。すべて生物はその遺傳的性質を中心本據とし之を環境に調節し行く事によつて生存もし發達もするのである。それは、此の外界環境と言ふものは生物に取つて有利なもの許りてなく實に無數の有害物があるからである。だから若し此の調節が好都合に行かないと只に發達が出來ないのみならず、生存が危険になるのである。それであるから、是等の有利なものを取り有害なものを逃れる爲に、自分の方を變へるか又は外圍の方を變

へるかせねばならぬ。即ち此に改造問題が起つて來るのである。今、この改造問題即ち調節生活について、動物並に幼兒の生活中の最も有りふれたる二三の例をあげて見ようと思ふ。

一體動物はもとは皆、水中に棲んで居つたものらしいが、陸上の方が食餌となる植物が多く、又酸素も多いから、先覺冒險の動物は段々陸上生活をしようと思ひ立ち、次第に自分の身體を改造し始めたのである。所が陸上の空氣は生物を乾干にする恐れがある。そこで身體を被ふに巧な外皮を作り又鰓の代りに肺を造つたは最大の發明であつた。人間はその中の最優者なのである。しかしまだ此の乾燥に抵抗する用意の出來て居ない動物は矢張、水邊に棲んで居り、又は鰓と肺と二つを持つて居つて雨期、乾期

に對し兩天かけをして居るのもある。人間も勿論まだ全くは水中生活を脱する事が出来ず、今でも母胎内にある時だけは羊膜液中に生活すること魚の水中に在ると異らず、また鯨時代は此所で經過することにして居る。さうして羊膜といふもので此の水分を逃がさないやうに嚴重に保護して居るのである。これは乾燥に對する調節生活である。幼稚園の子供も夏になると水を呑み、水遊びを欲する。まことに自然の要求で之も乾燥に對する調節生活に外ならぬ。

日光に對してはムグラの様に一旦持つた目が邪魔だと言つて止めにしたものもあり、又鼻や狼などのやうに夜中に活動するが利益で、光線は少くても用が足りるやうになり、其の代りに嗅覺や觸覺などを鋭く使つて居るのもあり、又一般鳥類のやうに晝間活動するので専ら目を使ふものもある。幼兒の目は始の程は明暗を識別するのみで半年位を過ぎ、その後だん／＼と赤青黄といふ風に色彩がわかるやうになるが、大抵は滿一歳以後である。光力に對する瞳孔の調節、視力の疲勞に對する瞼の閉合物體の大小遠近による眼球の調節などあるが、一般に細筋は疲れ易いから幼稚園の子供の仕事など過細なのは最もよ

くない。近視眼はつまり調節の恢復即ち調節の調節が出來損くつた結果である。

乾燥並に溫度に對して動物は色々な作用をする。熱ければ發汗して溫度を下げ、寒ければ食物を澤山取つて體溫を高める。食事について、なほ例を取れば、乳を呑む動物には柔かな唇があり舌があり哺乳時の初め大部分に齒は多くは出ない。子供の胃は管狀の時があり乳母車などに乗せて體をゆすぶると乳を吐くことがある。次第に胃は大きく成り行くが、まだ食物の必要量と胃の容量との割合が大人の様にならないので、一時に澤山食べ込む事が出来ず、幼兒は食事をたびたびせねばならぬ。大人は之を餘計なこゝと思ひ違へ、自分標準で間食と名づけ、どうかすると叱つたりするが、是等はみな必要な調節生活なのである。

動物はまた共棲といつて、他動物の保護を受け其の代りに利益を酬うて生活するがあり、只利用するだけのものもあり、又全く他動物の身體に寄生するものもあるが、此の共棲や寄生がその度を深くすると、動物は段々、不使用の器官を退化せしめ、感覺器や運動器や遂には消食器までも失ふものがある。此の

使はない機官や機能が發達したいと言ふ事は、過度の保護干涉の下にある幼兒が兎角に身體虛弱意氣銷沈となるのも分る。之は寄生とは言はないが自ら使ふ事のない機官機能が鈍ぶると言ふ事は同じである。

使へば保存され、使はねば消滅する事は幼兒の發音や言葉が明に之を示して居る。元來幼兒は三四歲頃迄に種々多様の音聲を發するものであるが、其れが母親の發音に一致したのだけが残り他は次第に消え行く又言葉も母親や家族や土地の人達の使ふ言葉となつて仕舞ふ。

動物の中には他の弱い動物を餌食とするのがあり又競争の結果互に喰ひ合ふものもある。是等は互に益々防禦法と攻撃法とに工夫を凝らすことになる。どちらにも一瞬時も油斷することが出来ない、油斷した方が滅びる事になる。そこで攻防具として色々なものを造り出す。介殼や鱗甲や毒牙や毒腺があり又保護色だの擬態だの欺瞞だの放臭だの色々ある。是等は攻防の競争が生み出した產物である。幼兒は友達同志で、遊戲をして、人間の攻防法に關する遺傳的本能を練習するものであるが、孤獨に棄て、置いて

は其れらの本能は發達の機會はない譯である。

動物には孤棲のものがあひ群生のものがあり或は一時集合するものもある。蜂や蟻のやうに女王、王、働き手といふ風に秩序井然たる社會生活をして居る動物では團體の利益といふ事を強烈に要求する。雄蜂などは役がすむと自らすぐと死んで仕舞ふ、役がないのは他のものに殺されて仕舞ふ。幼兒も幼稚園位の程度になると仲間の制裁といふ事を相當に行ふものである。幼稚園で子供が『團體生活に於ては各自の我儘勝手は許されない』といふ事を學ぶのは教育上大に價値のあることである。

右に述べた様に發達といふことは自己と環境とを出來るだけ改造し行くことさうして其の間に調節を保ち行く事に外ならぬ。改造と調節との進歩が即ち發達なのである。さて吾々人間は長い歲月の間に幾たびか進化の岐路に踏み悩んだものであるが、其の度ごとに色々な性質を取り或は棄て、今日在るが如き遺傳的性質を作つた。さうして此の性質を幼時即ち親の保護を受け得る間に大體具體化することにして居る。大人は、またも自分標準で、之を幼兒の遊戲と名づけて居るが、幼兒に取つては只の娛樂とは

違ひ、重大な要求眞面目な生活であるのである。人類の大きい調節生活の一つである、

さて幼児にかゝる調節生活を學ばしめる爲には、能くその遺傳性の成熟期や發展状態を洞察し、時に應じて良材料、良機會を供給せねばならぬ。此の事は之をたゞ自然に任せて置くだけでは中々うまく行くものではない。これらは皆家庭の父母や保育所の保母の工夫と努力とに期待せねばならぬのである。

○おたより

倉橋先生は豫定の如く去る十二月十三日外遊の途につかれ先づ米國へ向つて出發されました。十六日にコレア丸上の先生から無線電信が参りました。

タイへイヨウノ ヒロサカナ

茫渺たる大洋を過ぎつて先生は舊臘中にサンフランシスコへお着きになつた筈です。また時々のお便りを皆様ともに待ちませう。

○思ふまゝ

母親が我が子の遊び相手になつてゐる時はそこ何とも云はれない落つきがあります。母親には「自分の子供である」と云ふ自然の安心がありますから他の人（名使ひでも又は親戚關係の人でも）がお相手をしてゐる時はその空氣は何となく騒しいものです。たゞ矢鱈によく遊ばせやうと骨を折り「我がもの」と云ふ安心がなくて「托せられたるもの」と云ふ所から一種の責任の感じがつよいためです。幼稚園でも受持保母とその子供達との間には一種の落付き静けさがあります。時には今この室に居るのかと思はれる程しづかに、先生と子供とは融合してゐます。それが何かの場合に受持でない先生がその子供達を預ると、先生自身が静かでありませぬ。何だかあせります。やつぱり「自分のもの」になつてゐないためです。

大人が二人相對した時でも、お互の間に不安があると、どうも二人はお喋舌をします。黙つてゐるのが恐しい様で。しかし親友になると二人向き合つて平気で長い間沈黙してゐます。そしてそうした落付きが、何とも云へず嬉しいものです。（子）

# 改造運動の根本問題

——神戸に於ける講演——

ドクトル 三田 谷 啓

世界の表に大きな火事が起つて數多の財貨を消滅し幾多の人命を燼灰に化した處の過去五年間に於ける世界的大火こそは實に前古未曾有のものである東京に於ける神田の大火や大阪北區の大火は到底比較することは出来ないのである而して之に依りて或國は破産し或國は荒廢し又或處では類焼は免れても火の子が飛んで來たために少なからぬ損害を被らねばならぬ様な破目に陥つたのである。かゝる大火も昨秋やう／＼にして鎮火したが今日はその整理をせねばならぬ時と成つて來たのである。そこで今日しきりに叫ばれる、聲は改造と云ふことである。而して此の改造は凡ての社會に於て必要なのである。即ち教育、宗教、商工業、醫學、政治などあらゆる方面に亘つて色々の意味を持つて居るけれども今日は其の最も根本的問題に就いて考えたいものである。そこで私共が先づ第一に考えねばならぬ事は此の度の

大災害の中でも多くの人命を犠牲にしたと云ふことであるが此の人間が一夜にして作る事が出来るであらうか。尊い生命を一朝にして造ることが出来るかそう考へて見ると人それ自身程大切なものはないのである。今日の問題はこの人の改造であつて而もそれは各々個人／＼の改造をしなければならぬ。然らざれば今日絶叫されて居る世界の改造は到底不可能であるこれには母親の保護と兒童の教育とが必要であるこの二つの問題は先づ家庭より始められなければならぬのである。

## ○家庭に於ける母親の保護

第一に母親の權利と義務が認められなければならぬ。即ち母親は身體と精神を十分保護されて生活し強い子供を生むといふ權利と子供が生れたらば十分教育と養護を施す義務をもつて居るのである。夫た

る者はその妻を合理的に保護尊重すると同時に他の家族の人々も同様の心掛で接することが肝要である殊に妊娠中は特別の注意を拂つて出来る丈寛裕にしてその變化し易き精神状態に障りのない様に自らも慎しみ他人も同情しなければならぬ。突發的事件等に對して平素餘り感動しない様な事柄でも妊娠中は着しく感じて其の影響はやがて胎兒の上に及ぼすもの故些事に至る迄注意を拂つて生れる子供の幸福を考へねばならぬ。

### ○家庭に於ける子供の教養

子供が生れた後はこれを十分注意して教養せねばならぬ。即ちその教育の仕方には合理的教育法及び非合理的教育法の二通りがある母親の無知なために非合理的な教育を受けて取り返しのつかぬ運命になつて終る者もしばしばある我が國に於ける幼、少年及び青年の死亡率を見るに他の文明國よりもその數が多い中に就きても十五歳より二十四、五歳までの間に於て最も著しくその關係が見える。而して其の死亡する原因の多くは肺結核で男子よりも婦人に多いのは特に注目すべきことであるこれは國家として

も最も大切なる而も重大の問題にして一面家庭に於ける重大な責任である。畢竟強く成長し得る子供も家庭に於ける十分なる注意保護のないために中途にして病を得る者が多い胸廓の測定は從來卷尺でその周圍を計るのであるが更に進んで其形状を見ることが出来たならば一層意義あることになるのである。

これには鉛の帶と骨盤計と水準器があればそれで胸形が測定される。斯くて胸廓の形を見ることが出来る。そうするとその胸の厚さ幅、形状の普通なるか異常なるかも知れるし又左右不同の有無も知ることが出来るこれはこどもの養護に向つて極めて大切なことである。

私共がこどもの身體を検査をする場合に親の不注意の點を見出すことが少からずある。これはこどもの爲めに誠に氣の毒である。

### ○不合理の育児法

今その一、二の例をあげると。

(イ) 衣服を多く着せ過ぎる

之は肺のつよい者でも呼吸器に妨げをなすが元來弱い者は猶々害せられるのである。又帶を高いとこ



るにきつくする習慣も是非避けねばならぬ。

(ロ) 運動についての不注意

運動は最も大切なものである。之に依つて子供は眞の發育を遂げて居るのである我々の祖先が四肢で前進して居たものが足二本で歩ける様に成つたのは餘ほどの進化である其の進化が子供に在りては僅二ヶ年にして出来るのであるから餘程の苦心をして身體の個々の練習をするのである。先づ首を据える次に之を自由に動かして平均をとるのである而して凡ての順序を経て成人するのである故に子供の自然の運動を妨げたり又は過したりすると發達の上に害あるものである。然るに世間には往々智職的階級の兒童虐待とても云ひ度い様な事實のあるといふことは誠に遺憾に堪えぬ次第である。

私は大阪市に於ける凡そ七百人の學校兒童の一日曜日の午前及び午後二つに分けて其の遊び法を調査して見た處其の答案には種々様々のものがあつたが比較的外出が少なかつた。今一つは女學校の生徒が同じく一日の家庭生活を如何にするかといふ事を調査したが午前と午後に出出した子供の數は百人中に二、三人の割合に過ぎなかつた。都會生活をして

居るものは郊外の散策を試みてよい空氣を吸ふて十分の活動をすることが最もよいのである。

之は家庭の親たるものも十分に注意せねばならぬ處が世間にはそういつた注意の行き届かないものやまたは母親に依つて誤つた運動をさせられて居る場合が多くあるのである。

又これは子供に限つたことではないけれどもことに物質交換の盛んな子供の皮膚はなるべくこれを清潔にしてかつこれを強壯にしてやらねばならぬ。元來日本人は入浴することを好みて度々する習慣をもつて居るがこれにも往々誤つた考を持つて居ることにあの繊弱な皮膚の持ち主なる子供を攝氏四十度以上の高温に入れて再び寒い風にあてるといふ様な至つて不衛生的の矛盾したことをあへてやつて居るといふことはよろしくない。また夏季に行はれる海水浴なども子供の體質によつて適不適のある事も考へないでしたために思はぬ結果に成ることがまゝあるのである。要するに兒童の保護は凡て合理的なることとでなければならぬ、そこで母親は常に彼等の子供の要求が何物であるかといふことを觀察するために鋭敏なる眼をみはつて耳を開いて彼等の泣き聲を聞

かなければならぬ。こうした考をもつて児童を保護教育して身體の壯健なる處の健實な個人を造るといふことであるがそれには今一つ大きい意味のものを考へて見なければならぬそれは社會的母親の保護である。例へば母親保險の如き妊婦、産婦保護の如きものである。大阪にはこの理由によりて近いうちに市立産院が出来ることになつて居る専門の醫者、産婆、看護婦が居ても産を樂にさせる仕組である斯かる種類の施設が將來多く出来なければならぬと思ふ次は社會的児童保護である。例へば乳兒院、拙兒所、學校児童收容所、虛弱児童收容所、林間學校、精神薄弱兒收容所、感化院等の如きものである、斯かる種類の多きに涉れる保護事業を進捗させて行くには統一的機關が必要である。例へばハムブルヒには児童保護局と云ふものが今から十年程前に設けられて先年物故されたペーテルセン博士が局長であつたその下に働いて居る局員が七十人もあつて間接に援助して居る紳士淑女の數は無量幾千人に上るといふことである。何と盛なことではないか大阪に設けられて居る児童相談所の如きものも將來はあちらこちらに多く設けられることが大切だと思ふ又児童研究

所も是非早く建てる必要がある日本のこどもにつき研究されて居るとは今日では割合に少い西洋のこどもの研究を翻譯して日本の子供を取扱ふ時代ではない。今日には是非日本人自らが日本のこどもの身體と精神とにつきて學術的に研究調査する時である。

婦人會の如き團體が一致して母親の保護とこどもの教養の問題につき大に仕事をするとときである。望月さんは保育會の恩人て又神戸児童學會の世話役でこどもの爲めに大に盡力して下さつて居るが更に進で神戸婦人同盟會を組織されては如何。私はこれが本になつて大阪婦人同盟會、東京婦人同盟會など言ふものが出来、後には大日本婦人同盟會が成立してこれが更に萬國婦人同盟會と結びつき大會の時には日本から代表者を出すやうに希望するのである最後に個人の社會的自營の必要を一言したいと思ふアメリカのカリネギーは一代の間に巨萬の富を造つた人であるが此の人は自己の富は社會から得たのであるから自分も社會の爲めにこの富を用ひねばならぬと言つて社會事業の爲めに多大の財産をさげたまことに貴い心掛ではないか。これが私の所謂個人の社會的自覺で國民の頭の中に燃えて來なければ社會の

進歩は出来ぬ。富める者が金を出すばかりでなく、力ある者腕ある者識ある者各々その持てるものを捧げて、社會の向上を謀らねばならぬ。これが改造の根本になるのである。(文責記者 神戸幼稚園保姆志賀スエ)

## 我園の一日(一)

さきに、各地の幼稚園に、ある一日の保育の有りのままをお知らせ下さる様にお願ひ致しました處、御多忙にも拘らず、皆様より極めて有益ある御返事を頂きました、御寄稿の全部を掲げて新春の本誌を飾りたいと存じました處、非常の多数にのぼり、到底一回につくす事は出来ませんので、已むを得ず本誌には僅にその中の二つ三つを御紹介申上ぐる事にとり、尙、二月號は特に「我園の一日」のために本誌の紙面を充分にあてたいと思つて居ります。遠く滿州、朝鮮、臺灣のはてまでも、その保育振りを坐ながらにして拜見する事の出来ますのは、誠に興味深い事と存じます。尙、御多用中、お返事下さいました方に厚く御禮申上ます、(編輯係)

### 次 第 不 同

名 古 屋 石 田 藪  
松 若 幼 稚 園

我園は、緑深い昔滑かな奥まつた、普通民家を借り受け、大正六年菊の香薫る、十月二十三日開園いたし茲に二、三年を重ねてまゐりました。

此の間、如何にせば、幼兒のあらゆる欲求に満足させることが出来得るやと、苦心を致したが、何分不完全な設備では思ふ様にもならず、たゞ古く出来た石垣を圍んだ、七八十坪の庭が活動の中心場所でありまして、ほんの草木が眞の玩具眞の友達眞の教育者でありました。されば、いつまでもこの小さい建物に満足してゐる譯にはゆかず、大膽にも本年七月、南へ二丁離れた所に、園舎建設の工を起しました。

月は變り九月下旬園舎は、北側一棟、保育室五、保姆室小使室附添室便所玄關北南廊下、が出来上りました、長い休みに、あさ／＼た、幼兒を收容し保育をを始めました。しかし、(遊戯室兼會堂)の大建物や、(園長住宅)の建築工事が盛んに行はれてありますから、運動場には用材が山の如く積んでありますので、これ

から危険の虞あるを以て、今年中は庭へ出さぬ事と致しました。

床は全部、衛生、經濟を鑑み、コルク、板を張りやゝ家庭式に建て、幼児の活動に便ならしむる様にとつめました。現今八十餘名の幼児、保母五名です、因みに舊佛陀會園の名を改稱し、宗祖親鸞聖人、の御幼名松若丸の、御名を戴き松若幼稚園と致しました。左に本園日誌の中より、秋の一日をぬき、御紹介致します。

## 秋の一日

明方より降り出した雨は、ちやみなく、寒い朝の町を潤してある。

高下駄穿いてコトコトと、元氣よく入つて来る幼児は、當番の保母に、(始業一時間前出勤)迎へられ、包み切れぬ嬉さを、兩の頬に漂はせ、「先生おはよう」とすがりついては廣い部屋へ走つてゆく。

丁先生、女兒のか弱さを勞つて、ソロ／＼と歩を揃はせて入り來らる。母親にすがつて今朝買て貰つたと言ぬ許りの、白々しき雨傘を嬉しさうにさして來る、名札の墨もまだ乾かぬ位であつた。

次から次へと幼児や先生が入つて來られる、お迎の先生。傘や下駄のお世話で中々忙しかつた。

舊園舎時代雨ふりといへば、半數は缺席したがこゝに移つてから、其率が増えて晴天の時と餘り變らぬ様には未だ木々香はしい園舎に憧れてか又今週の製作品が綜合的になつて居るので、子供ながらも結果を楽しんで來るのであらうか。

いつしか時移り、幼児等は先生の、「おならび」の聲に各室の前に集り、廊下の洗面所に於て、手を洗ひ清め、極めて靜かなる、マーチにつれ禮拜室に入る。

形よき馬蹄形は作られ手には赤き念珠、黒き念珠がかゝつてある室の窓硝子は靜かに閉められた。

佛壇の前の雪白の布は、左右に開かれ清らかな、みあかしは和かい光を放つ。沈香の煙細く立ちてゆかしき薫は室内に満ちた。

尊い鑰……の音に園長の勤行(主事保母合唱)……はては我等の寸時も忘れることの出來ないところの、

陛下 の御聖旨教育勅語の奉讀が終る、此間僅に三分、緊張せる氣分は室内に漲つてゐる。これより釋尊の内觀法により、兩手を膝に瞑目すること二分、全く人無きが如く只、念味をつまぐる音の聞ゆるのみ。園長は温い音量で「皆さんをいつも可愛がつて下さる方は佛様である。わたし共は佛様と同じい心でお友を可愛がりませう。こうして幼稚園へ來るといつの間にかよい心になるのです」と。

あゝこうして尊い法衣の姿に接し淨かな音を聞いて、どうして悪い心が出やうか……。

もはや念珠は手より手に送られ先生の手によつて仕まはれた。輕快なるマーチは足かろく幼兒を各室に送り出した、各室に於て梅の打拔を一ヶ月出席表に貼る、(單に樂しみの意)。

活動を生命とする幼兒は、思ひの欲求にそれからそれへと飛びまはり、霽れ上つた南廊下の日當りよき自然階には芋蟲の様に、ゴロ〜と繪本を餘念なく見てゐる。

男兒が凧の遊戯を熱心にやつてゐる、K先生は口で調子を取つておられる、いつの間にか鏡の前は髮結場となつてゐる、手の瓜や足の瓜を切つて貰ふてゐるのを參觀してゐる兒もあつた。

かくして楽しい時間は續けられて行く。

「おならび」と誰か云ふと、おならびの御用意々々々と意味もない言葉をいひふらし、それが又都合よく鈴の代用になつて、ちやんと先生がその前に立たねばならぬ様になるのであつた。

一の組は先頃、郊外保育を八事山に催せし時、途中眼に映じた秋の景色を想ひ出し、今週の製作品となさしめた、八ツ切の畫用紙に摺紙貼紙縫取にて電車、案山子、を作り其背景に稻穂と鳴子を圖畫(隨意畫)により表はしめた、鳴子の音に驚いてバツト群れ立つ雀も亦自由に貼らした、之はすでに早朝より室内に掲げられた、模範物により皆よく受け取つてゐた。

智力の進んだ兒同士を四五人づつ相互的に、小さいサークルを作らせ、やゝ劣つた同士は六七人まとめてこゝには先生専ら誘導の任にあたつておられる、机の上には紙、針糸、糊、鋏、鉛筆が置かれてある、各組

二十人弱の數でいつも分割保育同様にゆつたり行かれてゐる。

踊れ〜と無邪氣に踊る幼児や、奏樂につれんとて苦心するいたけいな兒もあつて、こゝは遊戲の部室であつた。

美しい六つの珠を手にして、「コレ紅葉の色ですか」と質ねる兒や「先生おはかまの色」、「僕のオベ」といふもつきぬ遊びを繰り返し、「ヨイヤサ〜フレベル先生の六つの球は」とさかしく歌ひ出した年少者もあつたが、こゝは六球遊びであつた。

時計の針は十一時半を示した、一同晝食の準備をしかかつた、手洗も出來た、之よりキッチンと凡て用意が出來たので、慈悲深いみ佛に感謝する意で、小さい手は合掌された。保母が「お召り」といへば幼兒「いただきます」といふ、箸はいつしか口に運れおいしく一粒のこさず戴いた。口嗽も出來た。

積木室には建築場より運ばれた大きな木切れが山の様に積んである、男兒は、はやくも洋館、飛行機、水雷艇、燈臺、など、複雑なる組立にて、大模型を作りあげられた。

「大人がどうして〜こんな物が」と先生がいはれると、「先生見て下さい」と汽車を運ばせてあるのもあつた、女兒は優しく部屋の隅で、お人形事、家事、「私女中よ」、お父さんは誰?といふ……其他すきつぶ、かけあし、元氣に時の移るも知らず遊び狂うた。

大工左官の活動を熱心に見守つて壁泥の中に足を落したので、大騒ぎが起つた、

もうお歸りの時刻となつた。又おならびと一同集つて、うれしい〜行進や遊戲が始まつた其中先頭はいつの間にか馬蹄形を造らせ朝の如く、靜かに眼はとぢられ細い小さい和かいねむれ〜の曲が聞えた、開いた眼は又も佛前に注がれ終りの禮拜が靜かに出來た。

玄關先や、門先に、送り出して、恙なく歸宅せよと、祈る心の保母は始めて、我身に歸つた。

保育の一日を、記すに先ち、いさゝか當方の位置、設備幼児服装等につき、記して、御参考に、致したいと思ひます。

位置 大連市の北東の一小区を、俗に露西亞町と稱し、日本橋(橋下に南滿鐵道走る)を隔て、町部と連つて居ります、此處に、山城町、兒玉町、北大山通、乃木町、濱町の五町名があります、幼兒の大方は、此中から來ます。幼兒運動場は、北大山通りの電車線路に沿うた邊にあります。

公園と申しても、僅十萬坪のアカシャ樹林に、過ぎませんが、一丁先は電車の終點で、其處が、芝罘通の船の着く、ジャンク波止場です。冬はずつと結氷してしまひ、其處から、吹いて來る風は、それは、冷いのです。幼兒の多くは、北に向つて、來ますわけですから、どんなに、勇氣を出して、來ますかと、幾分お解りになる事と存じます。

設備 主なる建物は僅五十坪餘で、玄関が三坪、廊下が二坪、物入が一坪半、女中部屋が二坪、廊下を隔てて右に十五坪の保育室と、左に三十坪の遊戯室兼保育室があります。其廊下から、バラック建の、炊事場、携帶品置場、便所等に行かれます。

(イ) 三十坪の室は、南北西に十六ヶの二重ガラス窓があつて、其中北西の十ヶだけ、バテて目張をしてしまひ、僅三ヶの小窓を残しておきます。南の六ヶは其儘にしておきます。又此室に、置ペチカと申す暖房具を、四ヶ備へ付け木格子の圍を致します。シーソー、滑り臺等も此處へ備へ付ますのですが、今年は、まだ付けません。

(ロ) 十五坪の保育室には東南に、六ヶの窓があつて、東側の三ヶだけ目張りをなし、ダルマ形大ストロブと、置ペチカ、各一ヶを備へ付けます。

(ハ) 炊事場は五坪弱で、目張りをします。竈とダルマ形小ストロブとありますので温です。此處に、水

槽があつて微温湯を満し、下の手洗流しに五十倍のリゾール液を備へておきます。

又五十人分入の辨當温めもあります。

(二) 便所には作り付のベチカ、大きなのが、ありますから、暖です、手洗は微温湯を満しておきます。猶以上の暖房具には何れも二ヶ、又は三ヶの水入場があつて、不斷に水蒸氣を立て、空氣の乾燥を防いで居ります。

幼兒服裝。洋服三分ノ一弱で、他は和服です。大方ジャケット、メリヤス、眞綿等を下に着込み、上を簡略にして居ります。靴下はスコッチか、太毛糸製で、さもない者は、二重に穿いて居ります、足袋ですと、コルタン、又はカバール付です防寒帽を、冠つた上に、毛皮付のマントを着し、寒い日には、更にマントの頭巾を冠り、衿をしめ、手袋をはめ、防寒靴を穿つを常としますが、中には、手袋なきもの、學生帽のもの、ズボン下と、足袋との間に、赤身を二寸も、出し居るものカシミヤの靴下だけの者等もありますこれは、何處の家でも家の内は暖いので遂うつかり、自分だけ承知して、飛び出して、来るからもあります。

出席状況。非常に寒い日には、學校も、交番も、辻等に、旗を掲げて、臨時休業しますので、幼兒もそんな時は勿論休みます、それ程でなくとも、今日はと思ふ日には、家庭の意嚮で休ませても、一向構はぬ事とし、子供の健康を第一要件としてこちらからも、休場を、進める事もあります。時間も、只今は、九時から午後二時迄ですけれども、これも、大體で、十一時頃、来る者もあります。

## 晩 秋 の 一 日

氣温。外  $7^{\circ}$ 、火氣なき廊下  $9^{\circ}$ 、室内  $15^{\circ}$ 、朝起きて見ると、窓硝子は、一面に芭蕉林のやう

な、美しい、結晶を、つけて居り、滿洲獨特の、寒風が、巷より巷に、梢より梢に、吹き捲くつて居る、子供等の通場を思ひ遣つて、八時少し過ぎに行つて見ると、もう、二人の助手と七八人の子供とが、来て居て



元氣よく、玄關に、出迎へて呉れる。見ると何れの顔にも、「寒さになんか負けるものか」といひたい誇らしさが、あらはれて居る、僕なんか防寒帽だけで、マントなんか、着ないんだ」、「だつて風引いたらだめですね」等と口々にいふ、それ等に、取り巻かれて、カバーの足に、やつと上草履を、引つかけ、持ち物を、所定の場處に、收めて手を清める。S子さんは「あら私、手を洗ふのを、忘れた」と思ひ付いて、洗ふ。Y助手は、家庭に女手が多いので、何時も早い。今日も八時前に來られて、玄關に立ち、集つて來る一人づつに手傳つて、マントを脱がせたり、辨當を肩からはづしてやつたり、泣きさうにして來た者には力付けたり、元氣よく語る者に、合槌打つたりして居ると、Kさんが、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚しく御粗末な顔して泣いて來る。Y助手は、赤い其手を摩擦してやり乍ら、「偉らうございましたね、よく此處迄來られました」、「到々來られたんですから、泣くのは、およしなさい。」といつて、微温湯で手を洗はせ、大きな室の溫度の低い處に入れ、やがて、小さい室の、暖い處で、遊ばせた。H助手は、最前から、Sさん、Jさん、Kさん等と南滿鐵道を敷設して居る。積木の數、千個弱、線の延長、三間餘。驛あり、鐵橋あり、電柱あり、シゲナルあり、右より來るは、最新式のデカボットといふ汽罐車で、客車、有益貨車、無益貨車の混合列車で、長春から來たさうな。又左の方から、出て來たのは、窓が皆開いて居つて、これはミカド式の汽罐車で、埠頭から船客を乗せて來たさうな。シリンダーにする物を頂戴といふから、箸環の箸を渡す。番號が要るから、何か下さいといふのでH助手が、曆の上の數字を切り抜かせて、貼らせる。滿鐵の徽章が要るの驛名を英語で書いて下さいの、人形を欲しいのと、種々の註文が出て來る、助手も、幼兒も、大車輪で、大働き。Mさんは、飯事用の千能で、炊事場から石炭を持つて來て汽罐車に滿す。其傍に吾不關焉と、IMさんが繪本に見入つて居る。SH子さん等女兒が、摺紙でHさんから、あやめの摺み方を、傳習中。更に玄關へ行つて見ると、火の氣の無いかはり日光の豊かな此處では、NTさん、NTさんMJさん等、一の組の元氣者揃ひで、大積木、小積木様々取り變せて、大連神社の建築中。既に社と石段と二つの華表とが出来て居る。自分の顔を見るとMJさんが、華表の上の額を書いて呉れと頼みませす。長方體の積木に合せて、紙を切らしめそれに太

々と大連神社と書いてやると、拜みに来いと案内が来る。TR子さん等三四の子供と共に参りする、賽銭箱迄出て居る。試に拜む言葉を、聞いて見ると、KHさんは、「お菓子を下さい」と言つて拜むと、眞面目になつて教へて呉れる。とEさんが、「ちがひます、丈夫になるやうにつて拜むんです」と打ち消してしまふ。大方KHさんは、参拜の時貰ふ御供物の事を思ひ出したのではあるまいか、と思つて問ひ返して見たがもう何とも答へない。Kさんは、「さうぢやない、世界中の子供が、皆死ぬやうにつて拜むんだよ」と反對を、言つて例の滑稽の調子になつて居る。Eさんは教へられた通りに、慎んで白す。他の幼児等も變る／＼拜む、YTさんが太鼓を、持ち出して來て傘立に垂して打つて見たがどうもうまく鳴らないと首をひねつて居るから、傘立の上へ上げて、打つたら」と、注意すると今度はよく響いたので大喜び。櫓太鼓の話をして聞かせる太鼓につれて、Kさん、NTさん等が、御神樂をはじめめる。老成人然たる新入のMTといふ小さい子供も、兩手をポケットに突き入れたまゝぢつと見入つて、にっこり笑つて居る。

遊戯室では、玄關を切り上げたY助手相手に、鞠當て鬼ごつこで大騒ぎ、S子さん、R子さん、KSさん、SMさん等が、ベチカの蔭やピアノの下に隠れたり、飛び出したり、會集用花椅子を飛び越えたり、伏さつたり、起きたりして、本當に面白さう。何れも注意深い眼を四方に配り、スリッパも何も脱いで手に握つたまゝ息をハア／＼はづませて居る、其大騒ぎの傍には二つの組立積木を出して、工夫に餘念なき者もある縫取扱に斜線を入れたり、格子を縫つたりして居る者もある。何にもしないのは、JR子さん唯一人、やがて十時半頃にもなると、誰いふともなしにお始まりにしませう／＼との聲が聞えて來たので、汽車と大連神社とを殘させ、他の玩具を方付けたり、身邊を整へたりして、會集する事にする。全部集るまで、二三人の歌ふに合せて、風車や、雛子の歌を弾いてやつて、皆でうたふ。雛子の歌は大分うろ覚えだつたので、口で云つては節に合せ／＼しましたから、よく意味がわかつたと見えて、終り頃には皆可愛らしい氣分になつてしまふ。今日は四十六人に對してやつと二十九人の出席であつたが、自分ではよくこんなに來られたと感心した。

會集と言つても、特別な事をするのでなく、今迄思ひ思ひに遊んで居つたのが、一つ輪になつて、一つ心にしばしなるといふ迄です、今日は約束の勇吉さんのお話といふ催促なので其話をする。非常に喜ぶ。何かうたふつもりでピアノに向つたが、皆「勇吉さんの汽車よ止まれ」と、信號する真似をするので、早速其遊びに取り掛る。椅子と大積木とで鐵橋が出来、雨、勇吉、父、客、煙突、前燈、笛、石炭等の役割が出来、汽車が組立てられると、助手の驛長さんの合圖で進行し初める、雨は降る、橋は落ちる、勇吉は前掛を脱ぎて打ち振りつゝ、父に信號する、汽車は止り、人々は其身の無事を喜ぶ。こんな事を數回した後、數日前から日課のやうにして居る、お角力をしやうといふ事になり、ズック製の壘を六枚、皆で擔ぎ出して、腹式呼吸して、負けても泣かない誓ひの禮をなし、保姆の呼出して始まる、各人の姓に山とか川とかつけて呼んでやる。大概力を見計らつて取り組ませるので、投げられてもさういたくない。二巡の後、今日は勝つた人に誰でも飛び掛る。飛び込角力（私が勝手につけた名で本當の名は存じません）をさせた。皆熱中して上着を脱ぎ、羽織を脱ぐ騒ぎ、もうこれで十一時半過ぎてしまふ、小さい人々より順次整容含嗽して、お辨當を持つて食卓に着く。大きな子供は、壘を片付け、整容し含嗽する間に女中とボーイとが、床を濕る棒雑巾で拭ひ清め、食堂となる。（此間に當番の保姆、又は助手は手技材料を用意しちくを常とします）此日は、粘土をする約束であつたのでその用意が出来て居る、一同着席後「頂きます」と挨拶して話し乍ら食事する。十分間位から、一時間位の差で食へ終るのでどうしても、子供に無理が行くが他に室も無いので何か靜に遊べる材料を與へる事にする。食事をとへた子供は、含嗽をなし食器を洗つて藏ひ、奇麗に拭はれた机の上で各自由に製作に取り掛る。思想無き者には扁平體に穴を穿たせ、豆粕でも作らせやうかとの豫定であつたが、これは無駄な心配に過ぎなかつた。一人が繩の形を作つて見せに來たので、何ぞと尋ねたが本人にもわからぬらしいで一寸兩端に手を入れたら、「アツ鳩になつた」と大喜び、それや今朝の雛子の歌等から暗示を得たのか、大分鳥類が多かつた。ヒゴの足を四本もつけて教へられたり、餌を食べたり木に止つたり、羽を擴げて飛んだりして居るのがあつた。角力の光景をそつくり作つたのや、鱗を粘土板大に作つて、鱗片迄も畫きて得意な

のや、時計を作つて數字の記入を求めるものや、茶巾絞りや、三角皿や、梨の實作りに夢中なのもある。  
二の組はと見ると立派な汽罐車や、軍艦や、達磨や、栗等が出来たとて、飛び廻つて喜んで居る。やがて製作物を飾り棚に、道具や手は、手洗場で清め、荒れ性の子供だけにベルツ水をつけてやる、此間に一度手を膝にして食事の濟んだ禮があつた。

又自由遊びとなり、一部分は小積木で、汽車よ止まれの景を作り、一部分は椅子で、猫の家を作り五さんを猫にして、毬の紐を長くしたのを投げては、猫に拾はせ、猫が逃げると捕へるために追ひ廻し、これを繰り返して居る、其傍に防寒帽を冠つた一隊は飛行將校なさうで、輪投の臺を倒にしてハンドルとなし、實體鏡を以て、四方を窺ひ、粘土の時計で、時を計つて飛んだり降りたり、人に乗せたり、機械を檢めたりして居る。シングルベルスにて、馬車を作り、人に乗せて埠頭に、市場に、驛に走り廻るもあり、徑八寸の大毬當てをして、汗になるもの、獨樂廻しに一生懸命なもの、計數器の下に座してジャンケンで玉の出し合ひをして居る者などであつた。二時といふ時間に制限され、惜しみ乍ら歸る支度して順次挨拶して歸つて行つた。

(一一・二七)

## ○ 晩 秋 の 一 日

岡 山 市 山 崎 照 惠  
出 石 幼 稚 園

一、幼兒登園を迎ふ。

二、室内整頓に次いで本日新に設られし植木棚に植木の鉢を洗ひて並べたり。

三、分團生活に入る。時に九時過ぎなり。

イ、此子に特に此事をせしめんと立案して保姆が作りしもの(本日は畫き方をなす)

ロ、材料のみを定めて幼児に選ばしめしもの（二種とす）

風車 此れは二三日前より寒さ加はりて幼児の活動衰へし爲めに與へたり。

お菓子……數日前には特に與へし材料なるも今日まで盛になすものなりければ準備したり。

ハ、純自由に幼児の要求に應じたるもの

砂遊び、お菓子 人形、戦争事其他

四、食事、十一月中旬より分割を試みつゝあり其目的は（豊なる氣分にて食事を終らせ度き爲なり）

五、再び分團の生活に入る

イ、午前中より續きしもの。

ロ、午前中活動少なかりしものを主とし活動せしむる目的にて共同遊戯をなす。

此れをも分團的に試みたり

六、服装を整へて歸途につかしむ。

幼児大多數午前中は風車にて非常に面白く活動し午後は靜かにお菓子を作り居たり（紙細工）本日特に保母の感じたるは三のイに於ける場合、昨日園外に遊びし其時の寺の境内全體を非常な興味を以て描き保母の要求せる公孫樹も地面も極めて巧に極めて自然に發表せし事なりき。此れによりて幼児の心の發達は誠に合理的にして「吾人より見たる幼児」には誤り多き事を切に感ず。（一一・二八）

## 園外保育の一日

神戸市 清風幼稚園

午前九時全幼児を運動場に集め髪の亂れたるもの顔、手、足の不潔なものを調べそれ／＼整容をなさしめ

後二十分間後會集をしました。十時から十二時まで大倉山公園で園外保育いたしました。丁度陸軍大演習中  
ていくつも飛行機が空を飛び幼児は大喜びで一齊に飛行機の唱歌を謡ひながらとび廻りました。歸園後手を  
洗はせて食事に歸りました、午後は石盤に畫を描かせました皆飛行機でした。二時からトラホーム患者だけ  
園醫の診察所へ連れて行きました。缺席幼児は八十七名中只一名。(一一・一三)

附記 本園は後進部落に設立されました小學校入學前其準備のため一ヶ年間保育をいたします特殊の幼稚  
園で保育の仕方も一般と多少異つた點があります。

## ○ 我園の一日

東京本郷區 誠之幼稚園 小 向 喜 美

○「先生、お早うございます」。

×「先生、先生、今日は僕の方が勝ちました」。

△「先生、今日の朝幼稚園に来る道で、校長先生におひ(逢)ました。」

先「おひましたてはないでせう。逢ひましたでせう。お上手にお辭儀が出来ましたか。」

小使「先生、今、節子さんが、御門の處で、お姉様の袖をつかまへて、泣いて入らつしやいます。お姉様は學  
校が遅れるので、困つて入つしいます。」

受持先生 聞くよりも 急ぎ走せ行く 門の外 やがて抱き来る 節子さん 鼻と涙で 其  
顔は 目もあてられず かたはらで つくく様子 眺むれば 凡はそれと 知られたり 先

み 出で来るを 見れば不思議や こはいかに 先の様子は 夏の日の夕立過ぎし 如くにて

さつもの通り にこくと 可愛ゆき聲を はりあげて

節「先生、お早うございます。」

かくさま／＼の 出來事の うちに時計は 進み行き 九時も半ばを 過ぎぬれば やがて合  
圖の 鈴の音 チリン／＼／＼ 廊下に部屋に ちのがじし 遊びゐたりし ちさなごは  
右往左往に 定めたる 己が室へと かけてゆく しばしが程は なか／＼に 騒しかりき  
其うちに 静まりければ 先生は

「ちがばかりに行きたる方、行つていらつしやう、かけ出でなうて、  
駆けいだすなの ひとは 何のきゝめも あらばこそ 我を先にと かけて行く やがて  
事すみ 先生に 引つれられて 會集の 室に集へる 有様は 小さき折に 押しつめしお  
すしのそれに さも似たり ぎやう／＼づめの 其中に 不平も云はず 大人しく 朝の挨拶  
深呼吸 寒さ凌ぎの 體操も 皆よく揃ひ ほめられて 今は寒さも どこへやらいと嬉しげ  
に 騒ぎ合ふ しばし憩ひて 或は歌 或は遊戯と それ／＼に ことなるわざに 取かゝ  
る まもなく自由 あそびとて 追々繰だす 庭のおも 手狭なれども さま／＼に 遊び  
戯れ 語り合ふ 心の底も 隔なく いと廣々と 見えにけり

## 庭 遊 び

晴渡る 小春日和の 庭は今 自由の遊び はじまれり 今ぞ大事と 先生は 耳を引立て  
眼を見はり おもてはたはれ 遊べども 心の内は油断なく 子供の一言 一行を 保育の料  
にあてんとて 少しの隙も あらばこそ やがて駆け來る 太郎さん  
太郎「先生、きのふ、僕の兄様の御法事で、幼稚園をお休みしました。先生今度僕の御法事の時入らつしやい。  
ご馳走がありますよ。(法事の何物たるを母は教へざりしか)  
そこへにこ／＼花子さん。

花子「先生、先生、うちの母様はネー、うそをおつきになりますよ。」

先生「そんな事はありません。それはあなたの思ひ違ひでせう。」

花子「いゝえ、本當です。この間ネ、私がよく、お留守番をした時、いゝ兒だから、日曜には、何處かへ連れて行つてあげますよ。つて云ひながら、まだ、何處へも連れて行つて下さいません。」

先生「それは、お母様が、何か御用があつたからでせう。今にきつと連れて行つて下さいますよ。」(苦しき辯護にて、あとは話頭を轉す)

おでんば嬢の はね子さん 繩を引ずり 駈けて來て

羽子「先生、繩飛びの繩を廻して下さい。」

みよ子「先生、入れて下さい。」(繩飛組に加入申込)

きよ子「先生からして下さい。」

一郎「逆まはしが、いゝんです。」

はるか彼方の 砂場では

○「先生、大きなトンネルが出来ました。早く入らつしやう。」

×「先生、お團子が出来ました。どうぞ召あがつて下さい。」

松子「先生、ひとが、おまゝごとをしてゐると、杉山さんだの、三郎さんが邪魔に來て、お道具を、めちやめちやに蹴飛ばして、其のゴザの上で、お角力を取つてゐます。」

あまり事件の 大きさに 駈けつけ見れば こはいかに あまた集る ちび力士 組んづ轉ん

づ ゴザの上 いまは勝負の もなかなる 見ればお膳もお茶碗も 右と左にはねとんで 修

羅の巻と なりにけり むげにとむるも 氣の毒と しばしたゆとふ かたはらに 何故叱ら

ぬと 云ひたげに 此方をにらむ 松子さん やがて勝負の つきければ こゝぞと先生

進み出て

先生「杉山さん、人のこまる事や、いやがる事はよしませう、さあ松子さんに、ごめんなさいをなさい。」



杉山「ごめんなさい。」(頭を下ぐ)

角士達「失敬〜〜。」

先生「お詫をなすつたら、機嫌を直して、堪忍してあげて下さいネー。」

得心顔に 松子さん あなたこなたに 亂れ散る 膳椀拾ひ 集め来て また始まりぬ お

ま〜ごと

○「先生、鬼ごつことをしませう。」

□「先生、競争をしますから、用意ドンを云つて下さい。」

## 食 事

先生「お辨當にしますから、お手を洗つていらつしやい。」

皆それ〜に 手を精め 食事の卓に 打向ふ

先生「お仕度が出来ましたか。それでは、ご飯に致しませう。」

一同「頂きます〜。」

とる手遅しと あさなごの 箸もて口に 運び居る 食事のさまぞ まじめなる

先生「おすみになつたら、お合嗽しませう。」

程なくすみて 食休み 獨樂を持出す ものもあり 繪本折紙 すき〜の 遊にしばし

餘念なし

生「サアお庭に出て遊びませう。」

聞くより早く もて遊ぶ 玩具をもとの 引出しに 納めて庭に 下りたてば 元氣百倍

くさ〜の 遊はつくる 時もなし ほどをはかりて 振る鈴に 遅れまけじと 我が室へ

皆一同に かけて入る

先生「さあ、けふは折紙のお細工をさせよう。今日は、福助さんですよ。」

一步くくと すゝみ行く 福助さんの 折方も 皆よく會得 したりけん 忽見ごと出來上る

先生「お迎が見えたからお歸りにさせよう。さあ、マントを着せてあげませう。大きい方はお友達同士着せ合せをしてご覧なさい。」

仕度揃へば 引連れて 又も集る 遊戯室 ぞ機嫌ようの 挨拶も 一しほ力 加はりて  
いさみにいさみ 待ちわぶる 母の許へと 歸り行く 足の運びも かるげなり。(二・五)

朝鮮京城  
私立新龍山幼稚園

永延琴

## 初冬の日

今年は例年になき暖かさて、餘程凌ぎようございますが、やはり午前中は寒さ酷しく、十時に會集致しました。男子三十五名、女子三十二名出席致しましたが、會集の時は、皆寒さうでした。第二時間の談話(小雀の土産)の時は、皆元氣づいて、話もよく聴きました。十一時半に食事。「ホーラお晝になりました」の唱歌も、元氣よく歌ひ、午後から、スキップやら遊戯やらで、二時に、皆、今日の寒さも忘れて楽しく我が家に歸りました。(二・三)

奈良女子高等師範  
附屬幼稚園

會津カダエ

## 晩秋の幼稚園(日誌の一節)

霜月もはや名残りを告げやうとする二十六日、けふはお當番なので、早き起きて、外を見るに、空は晴れ

て一點の雲もない、明の明星は靜かに下界を照して居る。手早く仕度して早朝より出勤、幼兒の登園を迎へた。八時頃より幼兒は三々五々登園する。もう此の頃では迎へをして貰ふ幼兒は年少組の數人にすぎないやうになつた。今日は天氣のせいなのか。幼兒等は何れも喜色満面、一人として不嫌機な顔つきをして居る者はない。持參した諸物品の所定の場所に納めるやいなや男の兒は將校用の赤襟を肩に木劍を腰に、紅白の旗を打ち振つて勇ましい戦さごつこを始める。女の子は砂場に粉屋さんをするもあり、人形を抱きあるくもあり、ケンケンバイに餘念ないものもある。木馬や手押車や陸上ボートや鞦韆のさしる音は絶え間なくひびく。

九時の時刻には鈴の音で一堂に集り「先生オ早ウ」「皆サンオ早ウ」の朝の挨拶をした。一、二の組は幼兒の望にまかせ、校外保育をする事にした。他の組は各保育堂にかへりてお稽古やお遊びをするのである。今日は天氣はよし、風はなし、晩秋の氣を充分に味ははしめるのに詠へ向きの天候であると思つた。それでその目的で春日野方面へと導いた。幼兒は只もう無中になつて喜んで居る。美しく色づいた紅葉を拾つては「テンテン天満ノ紅葉」と教ふるものもあり、銀杏を手にしては「アー蝶々〜」と飛ばせて見るものあり、又中央に赤丸を貼つて日の丸の扇を作るものもある、「イツチン、カツチン、ホトソノ實」「先生イツチンハ食べられませネー」と尋ねるものあり、「一ツ二ツ三ツ四ツア〜こんな處に隠れて居るわ」と草の間より拾ひ出すものもある。寂しく咲き残つた尾花の中にわけ入つて何か探して居るものもある。元氣な男の兒はこゝにても戦争ごつこ、木に攀ぢ登るもの、小丘を昇降するもの、木ぎれを鐵砲にズトン〜とうち出すもの、又側の小川のほとりには田螺や小蟹をさがし出して興がるもの何れも皆とどりの遊びをして居る。天は高く氣は清く暖かい日光はこの笑み樂しめる兒等の頭上をさも撫でるが如く照して居る。げに秋の野山に遊ぶは大自然の懐に入るの思がする。かしこの林に親と子と引き添つてねむつて居る鹿の姿も見える。

名残はつきねど時は刻々に移つて行く晝食の都合もあれば十一時過歸途についた、帝室博物館の北手をすぎ武徳殿の前を通つて右に折て歸園したのは正午近くであつた。晝食の用意はもう出來て居る。幼兒の採集した紅葉や尾花やりんどう等花瓶に挿させ、手洗ひ用意させ「サアサア晝ニナリマシタ……」の合唱終

つて「イタダキマス」、「オアガリナサイ」、一同は今日の樂しさを思ひ浮べつつうれしく食事をする。食後はいつもしばし室内にとどまらせ皆の食事の終るのを待合はさせかた／＼繪本を見せ又は積木、畫き方、或は摺み方等自分の好きのものをさせる。又この間に色々な問答をする。午後は室内にのこるものは一人もない、皆外に出て活動して居る。自分も外に出て彼等の遊びを打守つて居ると一兒「先生僕二百匁増えました」、「僕三分大きくなりました、もうぢき先生位になりますネー」と意氣揚々。「先生私看護婦サン」と見れば胸には菊花の勳章を掛けてゐる、剪り方で作つたものらしい。又一人「先生明るいせう」とさし出すを見れば長柄のついた小さな提灯。彼等は保姆に見せることを又なきものに喜んで居るらしい。歩を轉じてこちらに來て見ると共同ベンチで自働車や電車を造つたり陸上ボートに椅子を組み合せては兵舎をつくつたり砂場では大人の思ひも及ばぬ大仕掛の築庭をつくつて居る、「トンネル」も二つ三つ出來て居る、「先生見て頂戴」幼兒等は先生に見てもらふのが何よりの樂しみらしい。小山の彼方では女の兒の六七八人蓆をしいて飯事を始めてゐる。裏の池では木の葉船を浮べてよろこんで居る。どちらを見てもこちらを見ても樂しい天地である。

「チンチンチリリン」あゝ名残多い今日の終鈴、幼兒等はめい／＼で諸道具一切を片付けた。身のまはりを整へて一堂に集り「先生サ様ナラ御キゲンヤウ」とお歸りの挨拶をした。彼等は小さい赤表紙の通信簿を肩にかけいつもの様に手に手をとつて元氣よく園門を出て行つた。

あゝ今日もまた幸多い一日を送つた。(二一・二六)

# 學制改革の上より見たる幼稚園

目白幼稚園主 和田 實

今日我國の學制を改革すると言ふことは、誰にも異存のないことであるが、然らばその改革は如何様に施さるべきかといふと、その一部の改善を叫ぶ人もあれば、又全般について大改革を企圖する人もあるといふ風はその理想とするところの異なると同様に、學制改革案は十人十色の趣きを見るのである。従つて今日まで幾度か企だてられ、幾度か實施されんとして而もその英斷を見ずに終つたことは、要するに當路者の理想の一致しなかつたことに歸するわけで、我教育界のために甚だ惜しむべき次第であります。今度の文部省の高等學校改革案も、多數の人の經驗を根據として、彌々實施することになつたといふのが、これは政友會内閣として甚だ慶賀すべきことで、吾々政友會に無關係の者と雖もこの斷案に對しては敬意を表するものであります。

申すまでもない、教育は世界人類の進歩と共に駭

々として停止する處を知らざるものであります。然らばと言つて、人間の一生を教育に費すといふわけにはゆかぬ、人生には限りがあり、而も人の能力には限りがありますからして、この無限大に向上進歩する教育を、何時までもつゞけてゐるといふわけにはゆきません、自から其處には一定の年限を與へなければなりません。

かの軍隊教育でも、完全にやるのは年限が長くかゝるからと言つて、十年も二十年もかゝるといふことは出来ませんし、又廿才の徴兵年齢を早くして十四才から十五才位に於て徴兵しやうといふわけにもゆかない、自ら其處には人間の活動する時期は標準として、教育期間を定めなければならぬのであります。

この學校教育も同様で、限りある人生に、限りなき教育を、ある年限に縮めて、一定の期間内に於て、而して一定の年齢者に教育するのでありますから、

學校を卒業したからと言つて、直ちに其者は教育を了つたものと見做すことはできません。學校出のほや／＼位、世の中に於て間に合はないものはないわけ、學校を卒業するともに更に實社會に於て、實際的に活動し得るまでには、自ら相當の年限を以てその活動方面の智識と經驗とを修得しなければなりません。

すると、この學校教育に於て已に短からぬ年限を要し、更にまた實際の修得に於て相當の年限を要するとすると、この二つの過程に於て人は随分長い年限を費さねばならぬこととなります。故に私は、たとひその者をして高等教育を受けさせるにしても、二十五や六、甚だしいに至つては三十才内外の年齢にまで、學校教育に於て費やされるには、卒業後社會的活動に入るに及んで非常な不利益を蒙らねばならぬので、學校教育は、たか／＼丁年に達するまでに了つて仕舞ふやうにあり度いと思ふのであります。社會的に有爲に活動し得る年齢に達して、なほ且つ學校教育を受けてゐるといふことは、今後の我國の進歩發達の上に於ても非常なる不利益と言はんければなりません。今日我國の高等教育、即ち大學

の課程を了るまでには、實に二十五才以上三十才までもかゝるのでありますが、せめてこれを二十才内外に於て切りあげることに出来るやうに改革されたものだと思ひます。が併し乍ら、誤解してならぬことは、如上の學年短縮論は、一般の教育についていふのであつて、目的とする處が學者にあり、専門的學科を研究せんとする如き人にあつては、更に大學校に入りて研究するもよく、この種の研究年限こそ、三十才が四十才でも、悠々年を惜しまず研究に費すが好いのでありますが、その他の學術の一般を知らしめるところの、いはゞ高等常識教育にありては、十年以内で於て修得せしめること、敢て難事ではないのであります。たとへそれが文科とか理科とかの、専門學科に於ても、今日の教育程度に於ては、優にそれまでの年限で了ることが出来ます。故に私は如上の方針を以て、我學制改革の上に、その年限を短縮されんことを希望するのであります。已にこの高等教育に至るまでの年限を茲に定めて、而して其上で、更にこの方針の下に、小學校、幼稚園の學制を改革すべく斷案を下さなければならぬのであります。この系統を無視して、單に小學校は小

學校だけで改革しやうとか、中學校は中學校といふ標準だけを以て改革に反對する、といふが如きは、甚だ教育系統を浸害するものといはんければなりません。

且つ小學校の教育費といふものは、地方の經濟の自治團體の過半を占めて、負擔にたへないと言つてゐる地方もある位で、小學校をやたらに膨脹させることは考へもてありません。

小學校を上に擴張して、大きい子供を一年小學校に餘計置くことと、小さい子供を一年早く教育することとの二種の方針について、その何れが經濟かと申しますと、大きい子供を教育する方が、その費用は小さい子供を教育するよりも經濟であります。無論完全なる教育を目的とする時には、何しても小さい時からこれを始めなければなりません。國家の教育行政から考へれば、この小さい方は暫く置いて、大きい子供に小學校を一年上に擴張する方が有効であります。

私の理想からいふと、小學校の就學年齢はもう一ヶ年おそい方が好いと思ふ、而して五六歳の兒童に

は、幼稚園入學を奨勵して、私立のこの幼稚園を盛んに各町村に設けしむるがよい。而して小學校教育の準備教育を此期限内に施すがよろしい。これを設けるだけの資力のない貧弱なる町村には慈善的のものを奨勵してやらせるやうにしたいものである、而して小學校に入つてから數年間、職務の年限を公の費用で教育するとなると、經濟の上の非常に節約することが出来ます。かくして小學校を了つたあとを中學校、大學校といふ風に漸次に進んでゆくやうにすれば、今日より更らに效果を見るであらうし、又富裕の町村であれば、二三聯合すれば中學校程度のものをも設置することが出来やうと思ひます。

又完全なる教育を望む人達には、幼稚園、小學校、中學校、大學といふ風に特種教育機關を有する一定の學校へ入學せしめて、これだけの過程を踏ましめるがよろしい。普通一般の國民にありては、幼稚園から小學校を了て、更に中學、大學と進むやうにし幼稚園は私立を奨勵し、小學校は地方の自治團體でやるか若くは官費となすやうにしたらと思ひます。

人間の初等教育は、實に幼稚園より初まるものであるが、現在幼稚園教育は、教育系統の中には入れ

られざる状態で、小學校教育を以て、はじめて教育を開始されるものと思つてゐる人が多い、即ち満六歳になつて、いろはのいから一二三の一から教育してかゝつてゐるが、これは人間六ヶ年間の教育を無視してゐるものであつて、相當の費用をかけて教育すると雖も、子供はその教授に飽きて緊張した興味を感じてこれが學科に勵むに至らず、甚だしいに至ると、四十分の教授時間を二十分にして切上げるといふ状態であります。

故にこの満六歳に達した位の兒童に對しては、その年齢に適したる處の教育を、幼兒教育に通曉せる人達に任せてやらせるがよいと思ふ、而して小學校をして今少し程度の高いものにするがよろしい。又その學齡を伸して中學校にまで進むもよい。何れにしても、學齡期を、上に擴張するがよいのであります。

ところで、この時にあたつて、幼稚園の保姆は現在の状態で満足すべきではありません。保姆の資格は小學令に於て小學校準教員の資格あるところのものでよいことになつてゐるが、この準教員といふもの

は、小學校に於ても、責任を以てその組を受持つことは出来ないものでありまして組を受持つてゐるところの正教員の下に屬する所のものであります。かゝる人が、幼稚園の保姆として教育の任に當り得るか何うか、一寸考へても明かな問題で、言ひ換へれば、幼稚園の教育の方が、小學校の教育よりもより至難でこそあれ、より容易である筈はないのであります。幼稚園の先生は、小學校に行つて先生となれないやうな、そんな低級なものであつてはならないのであります。少なくとも、中等教育の程度は立派に了つた人であらねばなりません。ところがこの幼稚園に於ても保姆の資格が、そのやうに向上して來ると、勢ひ多數の幼稚園を設置する上に於て、實現しがたい問題だといふ人があるが、決してさうでなく、一つの組を擔任する教員の下に、準教員のある如く、一つの責任ある保姆は正教員の資格者であらねばならぬがその下に就く人は、準教員の資格ある人で結構であります。

終りにのぞんで、幼稚園教育の、如何に小學校教育よりも、兒童のためにその初等教育として効果あ



るかといふに、幼稚園に於ては直感主義の教育を根據として教育してゐるに反し、小學校に於ては、直感主義の教育が實際に於て行はれてゐないのであります。この直感主義の教育は、その經費が非常にかゝるのであります、實行するに困難であるからであります、

ありますが、幼稚園にありては、比較的安易にこれを行ふことが出来ます。たとへば、小學校の生徒に理科の教授をするに當つて、熱のために物體が膨脹することを頭に入れさせやうと思つても、餘程の困難を感じるのであります。これは物その物を直接に見ないために、勢ひ想像に訴へねばならないからで初等教育としてこの實物について直感せざる、いはゞ文字の上で言葉の上で教育する位、困難で、而も効果のないものはないのであります。従つてそれを知らしめるために幾多の試験をして見せて、初めて得心させるのであります、その費用と時間と勞力を考へると、寧ろ、幼稚園の行ひ易さには及ばない、幼稚園に於ては、つねに直感によつて、諸現象を経験させるのでありますから、實にこの幼稚園では、理論に資すべきところの諸現象の實際について、十分知らしめることを得て、初等教育の効果を増進す

るものであります。故に理論としての理科は小學校で教育されるとして、その材料となるところの實感、幼稚園に於て教育される方が、時間に於ても手數に於ても費用に於ても、よほど簡易にして効果をおさめることが出来るのであります。

右は、幼稚園に於て當今の學齡期一ケ年を取り入れて教育する方針であるが、これと反對に、現在の小學校の年限の半分を中學校にゆづり、その下の半分を、幼稚園と結びつけて、八歳から九歳までにして丁つて、純粹なる幼兒教育を施設するもよろしい。而して九歳か十歳から十四五歳までの間を學齡として、義務教育を施すもよろしい。何れにしても、幼兒教育は私立が責任をもち、小學校は公費にするといふことは、國家の教育費の負擔をより軽くするものであります。

一席の座談て意を盡さぬところが多いのは讀者諸君に對して恐縮の外はない。今書き改める暇もないので此まゝで印刷に附することにした。御宥恕を乞ふ。和田生。

九

どんな小さな家でも、その家で生れた子供にとつては、それが一つの大きな世界に見えぬものはないその不思議、其の秘密は、漸々に現はれて来るものである。そしてまた、ごく貧乏な小屋でも少くとも屋根裏部屋位はある。其處へ行くのに一つの木の梯子が懸つてゐる、子供はどんな感じを以つて初めてこの梯子を登る事だらう。實に、此處に載つてゐる二三の古い道具、もう役にも立たなくなつて永い永い間忘れられてゐるこの道具、過ぎ去つて昔を回顧し、今はもう最後の骨まで腐つてしまつたその昔の人々をまた思ひ起させる。煙突の後側には、大抵は蟲の喰つた木製の箱があるものだ。これが、また、大に好奇心をそゝるのである。箱の上には、塵埃が手の厚み程にも積んでゐて、まだ箱には鍵前はついてゐるが、しかし誰でも中のものを出すのに合鍵は

を入れて、中のものを掴み出す事が出来るから。子供は震えながら、こはく／＼に手をその中に入れると中からポロ／＼になつた長靴や、糸車の竿の壊れたのなどを引張り出す。もうこんなものは半世紀も前に片附けられてしまつたものであるが。この二つの發見したものをちつと見てゐて、ふと思はず「この靴をはいた足は今何處に！」この糸車の竿をまはした手は今何處に！」と考へ出すとさあ子供は怖くなつて、身震ひしながら之を投り出す。しかし、母親は、それやこれやをまた丹念に仕舞つて置く、何か紐の要る時には、この祖父の靴の紐をきり取るために、またこの曾祖母の糸捲竿は、何か焚付けでも要る時の用意にと。しかし、また、よし、去年の冬のひどい寒さに、皆が仕方なく／＼乾いた堆肥まで燃やさなければならなかつた時に、この箱も遂にストーブの中に移住してしまつたとしても、屋根にはまだ、錆びた手鎌が残つてゐる。この鎌も、嘗つては

ピカ／＼と輝いて、威勢よく野に引かれ。幾千の黄金色の縁濃い莖を、たゞ一息に薙ぎ倒した事もある。また、手鎌の上方には、物凄いな鎌が懸つてゐる、昔この大鎌のために、家僕が鼻を削がれてしまつた、餘り上り口に近く懸つてゐたのと、その僕がひどく急いで梯子を登つたために。片脇にある一つの隅からは、鼠が出没する、二三匹が穴から飛び出して来る、そしてしばらく舞踏をしてから、またコソ／＼と引込んで行く。否、それ所か、光る様に白い鼯鼠が覗きつゝ偵ひつゝ、惻憐そうな小さな頭を前足ごと高く擧げてゐる。また、何處か氣のつかない隙間から差し込んだ、たつた一本の光線は、全く黄金の絲の様で、誰でも之を指に捲きつけたいと思ふ程である。

穴倉と云ふものは、小屋住ひにはないが、大低の且那株の家にはある。それも葡萄酒を藏まつて置く様なものではない迄も、馬鈴薯とか燕とかを入れて置く位はある。貧乏人の家では、斯う云ふものは戸外に相當な土饅頭を造つて、その中に隠して置き、秋になると堀り出し、冬時ことに霜のひどい時には、土の上を一層用心深く藁とか腐つた枯草などで覆ふ

穴倉に這入る事は、屋根部屋に登るよりも、一層氣をつけなければならぬ。さりとて、また、或は此の或はこの方法で、は入つて見たい云ふその熱望を、満足させない様な子供が何處にあらうか！子供は、例へば隣へ行き、もし其處の女中が丁度穴倉へ行く用があると云へば、甘へながら前掛にブラ下つて、望を達する。或は、忘れて戸が閉めずにあると云ふ様な時には、かう云ふ隙をねらつて、子供は自分の手腕で這入る、しかし自分一人で勝手に這入る事は勿論危険な事である、幾時急に戸が締められるかもしれないから。そしてまた穴倉の中はと見ると、十六足の蜘蛛が、胸の悪くなる様な無恰好な姿で、壁を這ひ回つてゐる。或は、ジメ／＼と渣んで漏つて来る青みが、かゝつた水が、故意とらしく残つてゐる凹みへ集まつて居る。到底永くこの中には居られない。然し、これは何の事か、恐れるにはあたらぬ。人は誰でも喉は持ち合せてゐるではないか、本式に大聲出して叫べば、つひには人に開かれて、助けは来る！

家に於てさへ、如何なる事情の許にも、子供にかゝる印象を與へるとすれば、ましてやその住める土地は子供には如何に思はれる事であらうか！初めて

母親に、又は父親に伴はれて、曲りくねつた町の通りを歩む時、驚異の念をおこさずには居られない。めまぐるしい感じなしではゐられない。

否、恐らくは、この時に事物の永遠の模形を持つて家に歸るのである。永遠と云ふ譯は即ち、次第に大きくなるに従つてこの、最初の事物の印象が打ち壊されると云ふよりも、寧ろ氣の付かぬ間に無限に擴がつて行つて、よし後からの印象が如何に立ち勝つて居やうとも、すべて之等のものに對抗して實に破壊され難いものを形づくるからである。さればこそ、私にとつて、あの美しい夏の時、日曜日や祭日によく母がした夕方の散歩の折に、初めて連れ行つてもらつた時の事は、今日も尙忘れがたく、あり／＼と心に残つてゐるのである。あゝ、何とあのウエツセルブレンは大きかつた事であらう！五歳の子供の足は、まだ町を廻りきらぬ中にもう殆んど疲れてしまつた。また、途中で何と多くの事に遭遇した事だらう！既に町や廣場の名前が私には謎の様に不思議に響いたではないか！「今はロールフツスへ來た。」此處はブランケンアウだ。「今クリングベルクを歩いてゐる。」あそこはアイヘンネストだ。」など

と云ふ、名前の根據がなければならぬに、ますます神祕が隠れてゐると云ふ事が確かに思はれる、名前だけでさへ、既に、かくの如くであるから、事物は尙更神祕に思はれたのである。教會——其處のオルガンの音や合唱の聲はよく聽いて居たが——墓地墓地に付きものの茂つた樹木や十字架や墓石——極めて古い家——三十年戦争の頃に、住んだもの（當時より二百年位以前の事だ、その穴倉の中には悪魔に護られてゐる寶が藏つてあると云はれてゐる——）一つの大きな魚池。凡べてこの個々のものが、私の心には、恰も、かの巨大な動物の肢體の様に、互に有機的に結合し、またそれが實に一つの驚くべき全體に融けあひ流れ合つて來た。このすべての上を秋の月が青白い光をそそぎかけて居るのであつた。私は其後、ローマの聖、ペテロ寺院や、又あのドイツの大伽藍を見た。また、私は、ペレ、ラシャイゼを、セスチウスのピラミッドを併ふた事もあつた。しかし、私が、教會とか墓地とか云ふものを考へる時には、幾時でも、あの初めて母につれられて散歩した晩に見たあの姿をそのまゝあり／＼と思ひ浮べるのである。

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

# コドモ

編輯顧問 高島平三郎先生

# 幼童 雜誌 良友

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選べるゝてあらうか單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいてあらうか。

發行所 東京市小石川區 七十五番地 小石川電話 六一二八

學東中東樂  
習京學京學  
院府立校女校  
教第教子講  
官一諭音師  
小梁葛  
松田原  
耕貞滋  
輔先先  
生生生  
共著

# 大正幼年唱歌

# 大正少年唱歌

菊判全十二集  
全部完成  
定價各金貳拾錢  
郵二稅各金貳錢

菊判全十二集  
第四集迄發行  
定價各金貳拾錢  
郵稅各貳錢

幼年唱歌は幼稚園及び小學校低學年兒童に少年唱歌は小學校兒童に歌はしめん爲兒童の日常生活に合適せしめ現行の國定教科書に連關せるものを選びたるものにて斯界の大歡迎を博せり。

東市麴町小學校長 土川五郎先生著

第四集

那須與一  
大工

加藤清正  
曾我兄弟

赤とんぼ  
祭

三輪車  
彦

コスモス  
秋の野邊

近刊  
豫告

## 大正幼年唱歌表情遊戯

遊戯界  
の福音

店書黒目

目丁二町馬傳南區橋京市京東  
番九〇八二第京東座口替振

所行發

# 日本幼稚園協會役員

會長

湯原元一

主幹

倉橋惣三

幹事 (イロハ順)

井村く

池田トヨ(會計)坂内ミツ(庶務)和田

賞

梶原梢

土川五郎 奈良山 梅

向井琴柱

和田くら 小向きみ

小山はな

小高つや(編輯)及川ふみ

評議員 (イロハ順)

乙竹岩造

吉田熊次 田中ふさ 野口香

安井哲

横山榮次

藤井利譽 下田次郎 日田權一

地方委員 (イロハ順)

折井彌留枝

大和田りよう 坪内きく 宇式かん

久住モト

坂井ふて

司馬のぶ 望月く に 膳 た け

## 加盟保育會

東京市保育會

京都保育會

大阪市保育會

神戸市保育會

静岡縣保育會

名古屋保育會

香川縣保育會

福島縣保育會

吉備保育會

# 謹賀新正

謝舊年中多大之御愛顧  
併而祈貴下永遠之萬福

幼稚園用品製造販賣

東京九段 フレール館

電話番町二九〇九  
振替東京二九六四〇

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一日發行)  
幼兒教育第一卷第一號(大正八年一月廿七日納本濟)  
發行

印刷所 東京印刷製本所